

# 自然豊かな淡河町に根差して50年 地域密着型で農福連携

## 社会福祉法人上野丘さつき会（神戸市）



### 経緯

- ・昭和43年に社会福祉法人上野丘学園として開園。開園当初より地域の農地を借受けて農福連携に取り組む。
- ・開園当初の作付面積は約2haであったが、近隣農家の高齢化により徐々に借受面積を拡大し、現在は、淡河町4地区の水稻約10ha、野菜約1ha（ハウス3棟約13aを含む）の農地を集積。水稻は、コシヒカリ、キヌヒカリ、山田錦、野菜は、季節毎の露地野菜、ハウスでは夏はトマト、秋～冬はほうれん草などの軟弱野菜等、約20品目を栽培している。
- ・平成28年度に製粉機を導入し、米粉製品の加工、販売を開始。
- ・令和3年度にライスセンターを整備し、自前での米の乾燥調製等の作業が可能となった。

### 取組内容

- ・多種多品目の野菜を露地・ハウスで栽培し、施設利用者の特性に応じた様々な農作業に天候によらず通年従事できるようにしている。農作業や品目を難易度によって区別し、例えば施設利用者が小松菜作業をできるようになると、次はほうれん草作業、のように徐々にステップアップできるように工夫。
- ・神戸市給食会の地産地消の取組である「こうべ給食畑推進事業」に参加し、学校給食へ施設で生産した玉ねぎを提供している。
- ・近年はスイカづくりに力を入れるとともに、農福「学」連携の取り組みとして、スイカの収穫と喫食により市内中学校と施設利用者の交流活動を実施。
- ・米や野菜など加工品の主な販売先は、道の駅や福祉事業所等。米はWebでも販売。白大豆はみその原材料用として契約栽培し、JAに出荷している。自家製粉した米粉「神戸米っこ物語」は菓子業者等に販売し、ペット用バームクーヘンなどにも使われている。

### 今後の展望等

- ・スマート農機の導入により、草刈り等の難易度の高い作業の省力化を図りたい。
- ・今後、地域及び施設においても高齢化等により農業の担い手が減少していく見込み。地域の農業と農福連携の在り方を地域と共に考えていきたい。
- ・米粉に野菜パウダーを混ぜたお菓子など、子供から障がいのある方にも親しむことのできる米粉のお菓子を考案し、公開しているレシピの充実などをしていきたい。